

日本経済団体連合会（経団連）が「採用選考に関する企業の倫理憲章」の見直しを決定したことにより、2016年卒業予定者（学部4年、修士2年生／2015年6月時点）より就職活動スケジュールが大きく変わりました。

2016卒の先輩は就職活動が進行中のため、2017卒（学部3年、修士1年）学生はスケジュールやノウハウといった体験をじっくり聞ける機会が例年よりも少なくなるかもしれません。そんな2017卒の読者のために、就職活動スケジュール変更に関して知っておくべきポイントを解説します。

就職スケジュールやプロセスは企業ごとに多様化

2015年卒までの就職活動は学部3年、修士1年の12月に採用情報が公開され、翌年4月から採用選考が行われるというスケジュールでした。今回のスケジュール変更で、2016年以降の卒業予定者を対象とした就職活動は、学部3年、修士1年の3月から採用情報が公開され、8月から採用選考開始となります。順次内々定が出ていくのは8月の選考以降というのが、一般的なスケジュールとなりました。

「一般的」と言ったのは必ずしも上記スケジュールに沿った採用活動を行う

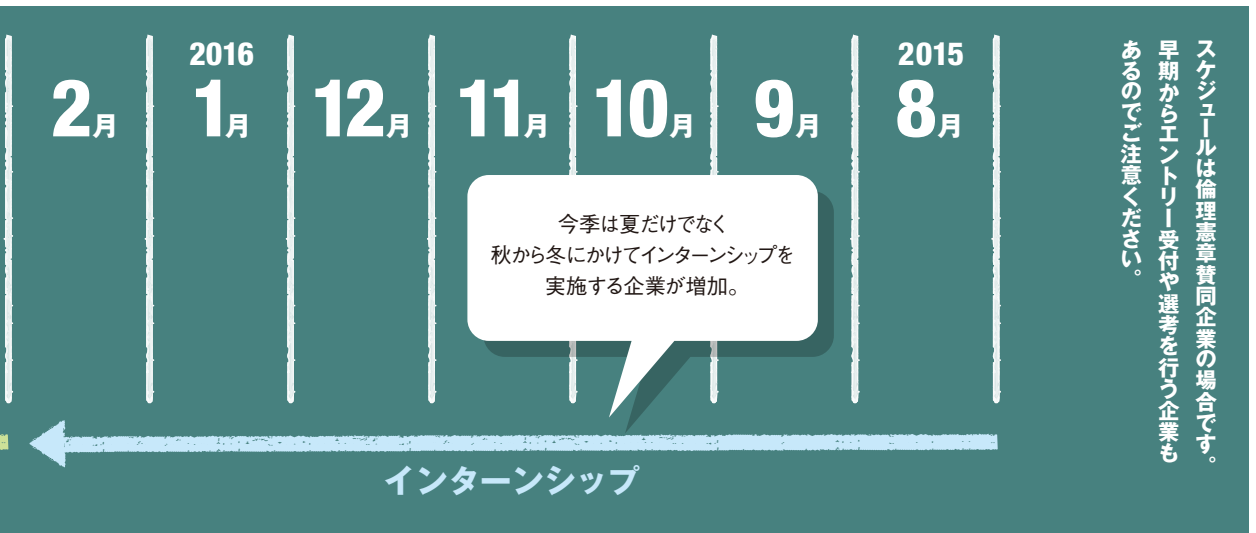
企業ばかりではないからです。学部3年・修士1年の秋～冬にかけて採用直結型のインターンシップを行う外資系企業や、早期に採用選考を進めて8月以前に内定を出す倫理憲章非賛同企業も少なくありません。選考時期や採用プロセスは以前よりも多様化しているので、2016年の3月になってから腰を上げるのではなく、事前にしっかり情報収集しておくことが重要となります。

2017卒の理系学生にとって 来年（2016年）の夏は正念場

なお、2016卒の就職活動を見てみると、就活解禁月のエントリー数やセミナー参加数が、以前と比較して減少傾向にあります。就活期間が短くなることで、企業の採用スケジュールが過密化し、採用試験や説明会の日程が重複したことが要因とみられます。そして、就職活動が本格的に始まると、エントリーシート提出や面接、そしてそのトレーニングにも多くの時間を費やさなければなりません。さらに、理系学生が注意すべきなのは、「修論、研究が忙しい時期と就活時期が重なる」ということです。卒業年度の夏は学業が非常に忙しいという理系学生は少なくありませんが、並行して就職活動に臨まなければなりません。ですから、

スケジュール

変化する就活時期とその影響



早期から情報収集を行い、自分の志望する業界の選考はいつピークになるのか調べ、学業や就活準備に必要な時間をふまえて大まかなスケジュールを考えておく必要があるでしょう。今年のうちにできるだけ単位を取得したり、研究を進めたりと、前倒しで学業に取り組んだり、比較的時間のあるうちに業界研究や語学力の強化などに取り組むことができればベストです。

**早期に将来について
考えておくことの重要性が高まる**

スケジュールが後ろ倒しになった分、「一旦就活に挑戦してみたら『進学』を検討する」といった選択肢を考える時間も限られてしまいます。「進学」か「就職」など、将来の進路に少しでも迷いがあるのであれば、「なぜ就職するのか」「自分の本当にやりたいことは何なのか」といったことを今のうちからしっかりと考えるようにしましょう。社会との接点を持つことで、自分の本当にやりたいことが見出せる場合もあるので、今のうちに様々な経験をして判断材料を集めてみてはいかがでしょうか。志望業界・企業など、自身の目指すべき方向が見えてくるかもしれません。

インターンシップ参加のチャンスは増加

早期に仕事や業界の理解を深めるためにお勧めなのはインターンシップです。インターンシップは仕事や会社の理解をしっかりと深めることで、自身の適性や本当にやりたいことを見出す絶好の機会。かつては夏にインターンシップを行い、12月以降に採用活動を本格的に開始するという企業が多かったのですが、昨年から夏だけでなく、秋から冬にかけてもインターンシップを実施する企業が増えています。インターンシップ参加のチャンスが広がっているため、この機会を活用し、就職活動が本格的に始まるまでに、自分の適性や社会に対する理解を深め、準備を整えてみてはいかがでしょうか。

企業は2016卒の就職活動の状況を踏まえ、2017卒の採用スケジュールやプロセスの見直しを検討しているところも少なくありません。それゆえ、就活生は情報に対する感度を常に高めつつ、行動計画をしっかりと考えることが一層重要となります。そして就職活動が本格化するまでの時間を活用し、社会についての理解を深めたり、自身のスキルアップに努めたりと、時間を有意義に使ってください。「自分が将来どうなりたいのか」「そのためにいま何をすべきなのか」この夏、考えてみてください。

2017卒の就職活動ス

